

オオバナミズキンバイ・ナガエツルノゲイトウの繁茂状況確認調査報告

- ・日時/2018年4月2日（月） 午前9時00分集合、9時30分～11時30分
- ・場所/手賀沼上沼～ハス帯沖合い
- ・参加者/農研機構：芝池博幸氏、嶺田拓也氏、吉永育生氏、県立中央博：林紀男氏、
美手連(八鍬雅子、中野一字、野口隆也、森康行、竹内順子、小倉久子)、
「ボートセンター小池」船頭さん
- ・報告/小倉久子（亀成川を愛する会）

※この見学は手賀沼流域フォーラム調査事業の一環です。

2月の調査でも、すでにナガエツルノゲイトウ（以下、ナガエ）やオオバナミズキンバイ（以下、オオバナ）の発芽が始まっていたのですが、その後の繁茂状況を確認する目的で調査を行いました。

今回は、去年の群落の崩壊したものが、ばらけた「かたまり」になって、沼のあちこちに漂流、漂着しているものが目立ちました。これは、沼の水位を上げたため、水際にあったナガエ・オオバナの枯れた群落が、浮き上がって離岸したものかもしれません。



沼のあちこちに漂流・漂着したナガエ・
（オオバナ）の群落

それぞれの群落では、去年のナガエは枯れたり分解し始めてはいるものの、芽を出して（拡大）再生産するための土台としては、しっかり機能しています。



ナガエもオオバナも、どんどん芽を出していました。
(左:ナガエツルノゲイトウ 右:オオバナミズキンバイ)

北千葉導水第2機場の前面にあった大きな群落「ナガエ・オオバナ大陸」は、2月17日の調査のときには、すでになくなっていたのですが、この辺りは、以前はヨシ帯が広がっていたのだそうです。それが、ナガエやオオバナによって駆逐され、ヨシ帯はすっかり後退して面積も激減してしまいました。



ヨシ帯を乗っ取ったナガエ・オオバナは、簡単に剥がれてあちこちに拡散してしまいましたが、今年この部分に生えてくるのは、おそらくナガエ+オオバナ でしょう。そして、次第にナガエを駆逐して、オオバナが占領していくことが予想されます。

ヨシの成長速度はナガエやオオバナよりもずっと遅いので、一度衰退したヨシ帯の回復は非常にむずかしいと思われます。

漂着したナガエ・オオバナの中の。水のよどんだ部分では、ナガエ・オオバナの分解により水が嫌気状態（水が腐る）になっていました。こういう水の COD（化学的酸素要求量；水の有機汚濁の指標）は悪化するので、この影響が手賀沼全体の水質に悪い影響を与える可能性があります。



すでに4月の時点で、オオバナがナガエを負かして主導権を握っているところが何か所もありました。



オオバナの水中の茎は節のようになっていて木質化しています。おそらく、ナガエの（枯れた）茎よりも、オオバナの茎のほうがずっと硬いので、群落の強度としては、

ナガエ単独群落 < ナガエ・オオバナの混在群落 < オオバナ単独群落
になると考えられます。

もしオオバナだけの（大）群落ができてしまったら、ちょっとやさそとではビクともしないと思うてよいでしょう。少しでも早期に駆除することが絶対に必要です。